

《 豊高の風景—12月》

サッカーW杯での日本代表チームの活躍に一喜一憂しているうちに、校内外の風景はすっかり冬らしくなっていました。木立はすっかり葉を落とし、冷たい風が身に沁みます。

本校の卒業生、吉田麻也主将は豊高での高校時代、グランパスユースでの活動で忙しい中でも絶対に課題を遅れずに提出し、居残りはできないからと定期考査はもちろん小テストにも必ず合格していたということです。

そして、将来は海外のチームで活動することを目標にして、個別指導を進んで受けるなど、英語の学習に特に力を入れていた・・・と、かつて豊高で吉田選手を指導していらっしやった英語の先生から伺ったことがあります。そんな吉田選手が夢を実現して海外で活動し、日本代表を長年務め、かつ主将としても活躍しておられることは、本当に尊敬に値します。

とはいえ、「吉田先輩」は決して雲の上の人ではないと思います。以前ここに同じことを書きましたが、皆さんは、高い目標を持ち、真摯に努力を続けることで高い能力を発揮する力を持っています。

もうすぐ2023年。皆さんは自分をどんな自分に成長させたいでしょうか。大きすぎても構いません。夢を持って、新しい年を新しい気持ちで迎えてみませんか。

では、良いお年をお迎えください。冬休み明け、元気な顔を見せてくださいね。

ネガティブ・ケイパビリティ (negative capability)

—どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力—

私たちは、「能力」と言えば、才能や才覚、物事の処理能力を想像します。学校教育や職業教育が不断に追求し、目的としているのもこの能力です。問題が生じれば、的確かつ迅速に対処する能力が養成されます。

ネガティブ・ケイパビリティは、その裏返しの能力です。論理を離れた、どのようにも決められない、宙ぶらりんの状態を回避せず、耐え抜く能力です。(中略)私たちにとって、わけのわからないことや、手の下しようのない状況は、不快です。早々に解答を捻り出すか、幕をおろしたくなります。

しかし私たちの人生や社会は、どうにも変えられない、とりつくすべもない事柄に満ち満ちています。

むしろそのほうが、分かりやすかったり処理しやすい事象よりも多いのではないのでしょうか。

だからこそ、ネガティブ・ケイパビリティが重要になってくるのです。私自身、この能力を知って以来、生きるすべも、精神科医という職業生活も、作家としての創作行為も、随分楽になりました。いわば、ふんばる力がついたのです。それほどこの能力は底力を持っているのです。

帯木蓬生『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』朝日新聞出版 より抜粋

【次回スクールカウンセラー来校日】12月27日(月) 日程が増えました！！

次々回 1月16日(月)

悩みや不安があるとき、気持ちを言葉にして人に話すと、前向きになれることがあります。

相談内容の秘密は守られます。安心して利用してください。

希望者は、担任か養護教諭に申し出てください。

* 相談室の利用方法について *

スクールカウンセラーに相談する以外にも、校内の相談係の先生と相談室で話ができます。

希望する人は、養護教諭、担任、教科担任等、どの先生でもよいので申し出てください。

後日、日時を設定します。